

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19720107  
 研究課題名 (和文) 日本語諸方言の提題形式に関する研究

研究課題名 (英文) A study on sentence-subject forms in Japanese dialects

#### 研究代表者

小西 いずみ (KONISHI IZUMI)  
 広島大学・大学院教育学研究科・准教授  
 研究者番号：60315736

研究代表者の専門分野：人文学  
 科研費の分科・細目：言語学・日本語学  
 キーワード：提題表現, 引用表現, 方言文法, とりたて表現

#### 1. 研究計画の概要

本研究は、日本語諸方言がもつ〈提題〉の形式のバリエーションと各形式の意味・文法的特徴を記述し、それらの発達・変化過程について考察することを目的とする。具体的には次のとおり。

- 1) 日本語諸方言における提題形式のバリエーションを把握する。
- 2) そのうち意味・機能上特に興味深い現象を示す形式をいくつかとりあげ、その意味・用法を記述するとともに、そのような意味・用法を獲得するまでの発達・変化過程について考察する。
- 3) 以上の成果とこれまでの共通語を対象とした研究での蓄積を踏まえ、提題という意味・文法カテゴリのありかたやその発達のしかたについて、理論的に検討する。

以上の目的のために、方言話者をインフォーマントとする臨地面接調査・先行研究の記述の整理、既存の談話資料・共通語口語資料の用例調査などを並行的に進める。

#### 2. 研究の進捗状況

上の目的に沿って記述する。

1) 先行研究の断片的記述の整理、調査報告、臨地面接調査、談話用例調査等より、日本語諸方言における提題形式のバリエーションはおおよそ把握できた。

2) これまで北陸・近畿・中国・九州において引用表現由来の提題形式の意味・用法に関する臨地面接調査、談話用例調査を行った。

また、北東北方言における仮定表現由来の提題形式についての調査も始めている。

3) 1)2)に並行して進めている。

#### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。  
 (理由) 調査はおおむね予定どおりに進め、結果の整理・考察も進んでいるが、成果公開がやや遅れている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今年度中に、提題形式のバリエーション、および、各地方言の特徴的な提題形式の意味・用法に関する成果 (学会発表・論文) をさらに行なう予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 小西いずみ 『方言文法全国地図』における回答語形数”日本語学 26 巻 11 号. 35-43, 2007, 査読無

[学会発表] (計1件)

- ① 小西いずみ “引用表現における富山・大阪・広島方言の対照” 広島大学国語国文学会, 2007/11/25, 広島大学

[図書] (計4件)

- ① 小西いずみ, 私家版, 広大生の方言地図 2008-2009, 2010, 143 頁
- ② 小西いずみ, 私家版, 広大生の方言地図 2007, 2010, 89 頁

③小西いずみ他計 28 名, 桂書房, 方言研究の前衛, 2008, pp.213-233.

④小西いずみ他計 6 名, 岩波書店, シリーズ方言学 4 方言学の技法, 2007, pp.1-38.

[その他]

ホームページ

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/ikonishi/>